

地理歴史等

令和3年度(前期日程)

注意事項

- 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 問題は1冊(本文3ページ、下書用紙1枚)で、解答用紙は1枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 1) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 1) 世界史、2) 日本史、3) 地理、4) 倫理、政治、経済、5) ビジネス基礎、以上5科目のうちから1科目を選んで答えなさい。さらに、選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

- 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、算用数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。なお、問題番号は問題ごとに指定された解答字数に含めます。

(例) 3)

Iの「問1」の場合 →

I

					5
1

日 本 史

I

次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問3まですべてで400字以内)

たとえば裁判に訴える場合、(a)中世の人々は有利な裁定を求めて、武家の法廷、あるいは公家の法廷、さらには寺社の法廷と、複数の法廷をわたり歩くことをいとわなかった。(中略)さらには、利害を共にする人々が一致団結して目的達成にのぞむこともあった。(b)一揆である。(中略)こうした一揆的な結合が日常化したものが(c)惣村である。住民たちが一致団結することによって、村は単なる生活の場を越えて、中世という厳しい時代を生き抜く組織に変貌したのである。

※「『中世史講義』一院政期から戦国時代まで 高橋典幸／五味文彦 編 ちくま新書」より引用(問題作成上の都合により一部改変)

- 問1 下線部(a)について、中世の代表的な歴史書として「愚管抄」が挙げられる。その著者を記せ。また、その歴史書はどのような歴史観にたって叙述されているのかを、それを記した目的と合わせて説明せよ。
- 問2 下線部(b)について、中世の一揆と近世の一揆にはその性格について明確な違いが見受けられる。その違いについて、それが生じた原因である歴史的背景を踏まえながら説明せよ。
- 問3 下線部(c)について、惣村が形成された理由を簡潔に説明せよ。

II

次の文章は、近代日本の実業界に指導的役割を果たしたことから「日本資本主義の父」とも称される人物である渋沢栄一による著書、「楽翁公伝」の一部である。ここで渋沢栄一は全く異なる時代における、ある歴史上の人物について言及している。これを読んで、下記の問いに答えなさい。(問1から問4まですべてで400字以内)

抑々私が漸く楽翁公に葵傾するに至ったのは、(a)明治六年に官を辞し、(b)の経営に任じて間もなく、時の東京府知事大久保一翁氏から、江戸幕府時代からの積立金として東京府に保管せられて居る共有金、一名七分金の取締の一人に挙げられた時からである。大久保氏は幕府の重臣の一人で、徳川家が静岡県に封ぜられた時、慶喜公の御身の上を憂慮して、その御家政の整理に務め、また静岡藩政に尽力し、私が仏蘭西から帰って静岡で商法会所を起した時にも、大に庇護せられた人である。私に共有金の取締を囑託せられたのは、それらの関係からであらうが、私はこれが為め今日に至るまで、引続き東京市養育院の経営に当ることになった(中略)。かく共有金は養育院の費用となったばかりでなく、その前後に於て東京の道路・橋梁・墓地・瓦斯等の施設を始め、種々の公共的事業に用ひられて大に効果を挙げたが、私は抑々この共有金なるものは如何なる性質の金であらうかと考へて、その後養育院幹事の安達憲忠氏をしてその由来を調査せしめたところ、これこそ天明・寛政年間に於ける幕府の老中(c)、即ち楽翁公の善政の余沢であることを明かにした。

※渋沢栄一『楽翁公伝』(1937年、岩波書店)より引用

問1 下線部(a)の年に起こった政府内での事件を説明せよ。

問2 空欄(b)に当てはまる、日本最初の株式会社名を記せ。また、その会社が日本資本主義に果たした役割を説明せよ。

問3 空欄(c)に当てはまる人物名を記せ。また、彼が行った都市向けの政策を、上記の文章を参考にして、なぜ彼の政策が渋沢栄一と関連があるのかを明らかにしながら説明せよ。

問4 渋沢栄一が大きく関わり、現在の東洋紡の基盤ともなった株式会社の経営実態およびそれによる貿易上の成果について、そこで用いられた最新技術を具体的に示しながら説明せよ。

III

次の文章を読んで下記の問いに答えなさい。(問1から問3まですべてで400字以内)

近代以降のデフレ政策は主に3つ挙げることができる。1つ目は松方正義内閣による“松方デフレ”である。19世紀後半、当時の情勢に応じて不換紙幣が大量に発行され、激しいインフレが発生した。松方正義は増税によって歳入の増加を図り、軍事費以外の歳出を緊縮して歳入の余剰で不換紙幣を処分した。2つ目は浜口雄幸内閣によるデフレ政策である。1920年代の度重なる恐慌を政府は日銀券を増発して処理したため、インフレの傾向が強まっていた。そこで浜口内閣の蔵相であった井上準之助は財政緊縮、産業合理化、旧平価による金解禁を行い経済界の抜本的整理を図った。しかし世界恐慌の影響もあり不況が深刻化し、昭和恐慌に陥った。この結果、労働争議や小作争議が激増し、政党や財閥への批判が高まり、テロも起こった。3つ目はドッジ＝ラインによるデフレ政策である。戦後行われた(a)傾斜生産方式によりインフレが進行したが、(b)GHQによる占領政策の転換により、日本を東側陣営への防壁とするために日本を復興させようとする考えが起こり、インフレを抑えて国内経済を国際経済に結び付けるために経済安定九原則がアメリカで採択され、それを実現させるためにドッジが来日し、ドッジ＝ラインに基づいた超均衡政策を行い、単一為替レートを設定して円の価値を安定させ、復興金融公庫の廃止と見返り資金勘定の創設、傾斜生産方式から集中生産方式への転換、封鎖経済体制から開放経済体制への移行などの諸施策により日本経済をドル主導の国際経済と結び付け、国際競争のなかで輸出振興を図った。さらにシャープ勧告により直接税中心主義を採用し、地方税を独立税とするなどの税制改革も実施された。しかしインフレは収束したものの不況が深刻化し、中小企業の倒産・失業者が増大した。その一方、大企業の再建の基礎がつくられ、(c)日本経済を再建することができた。

問1 下線部(a)を構想した機関名を記せ。また、その政策の内容を具体的に説明せよ。

問2 下線部(b)について、これが生じた背景及び、「転換」の内容を説明せよ。

問3 下線部(c)について、戦後の日本経済は重化学工業製品の輸出によって必要な外貨を獲得する道を取らざるを得なかった。その理由を説明せよ。